

復興支援フォーラムニュース No.117

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

<第115回 ふくしま復興支援フォーラム> (2017.09.01)

「福島から『変革者』を育てる～ふたば未来学園の挑戦」

福島県立ふたば未来学園高等学校 校長 丹野純一

1 開校の経緯・背景

(1) 地域と生徒の状況

- ① 全国の地域の抱える課題が震災と原発事故により先鋭化 → 課題先進地域に
- ② 原発事故特有の課題 → 長期化する避難生活、放射能との戦い、コミュニティの崩壊、分断と対立、偏見や風評
- ③ 長期化する避難生活 → いじめや不登校 → 中・長期的な心のケアが必要
→ 一方でふるさとを取り戻そうとする強い意志

*在籍生徒の半数は双葉郡出身。半数は、いわき、福島、郡山、会津、相馬等出身。

(2) 双葉郡教育復興ビジョン

「双葉郡子供未来会議」で子供たちの考える理想の教育（『動く授業』『世界とつながる』『夢を見つけるたくさんの「小さな窓」』等）も踏まえ、幼小中高大一貫した教育ビジョンを提言。その中で、中高一貫校の設置が盛り込まれた。

2 教育目標の策定

(1) 震災と原発事故を経験した私たちに課せられた使命は何か？

→ これまでの価値観や社会のあり方を根本から見直し、持続可能な循環型社会の実現、自立した新たなコミュニティ・まちづくり、再生可能エネルギー社会の実現など、新しい生き方、新しい社会の建設を目指し、変革を起こしていくこと。

(2) 教育目標、校訓、教育方針

教育目標：自らと、地域、社会を変革する「変革者たれ」

校訓：「自立」「協働」「創造」

教育方針：生徒が主体的に動く学校、失敗を恐れず困難な課題に挑戦する生徒を支え応援する学校、現実社会の中で学ぶ学校、地域・コミュニティや世界と共に学ぶ学校、夢を開く窓がたくさんあるような学校を目指す。

(3) 生徒に育む資質・能力

「知識」だけではなく、論理的思考力、表現力、寛容さ、能動的市民性等を育成。

→ 何ができるようになるかを段階的に示した「ルーブリック」を作成。

3 教育内容・カリキュラム

(1) **総合学科**

進路に応じ科目選択：アカデミック、トップアスリート、スペシャリスト系列

(2) **未来創造型教育**

実社会におけるグローバルな課題解決の実践を通じた学習
(スーパー・グローバル・ハイスクールとして文部科学省指定)

4 **生徒たちの学習**

(1) **地域の復興の課題を見つめる**

フィールドワークでとらえた地域の課題を「対話劇」で表現

(2) **海外研修**

ベラルーシ、ドイツ（再生可能エネルギー）、アメリカ（国連）でグローバルな課題に向き合う。

(3) **地域復興の探究と実践**

- ・福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について探究しつつ、地域再生の実践を行う。
- ・「原子力防災探究」、「メディアコミュニケーション」、「再生可能エネルギー」、「アグリ・ビジネス」、「スポーツ」、「福祉」の6つの班に分かれて大学のゼミナールのように自分たちのテーマを設定して、仮説を立てて探究
- ・国内外での研究成果発表や提言を行う（国際会議、国、自治体等）

* 「社会起業部」

(4) **主体的、対話的で深い学び**

知識詰め込みだけの授業から脱却し、知識の習得、活用、探究を重視した学びへ

5 **学習支援**

(1) NPOカタリバの福島コラボ・スクール→NPO職員や大学生が5名程度常駐

(2) 大学生による学習支援→福島大学生などによる放課後個別指導

(3) ふたばの教育復興応援団→平田オリザ先生などによる特別授業

(4) 生徒全員にタブレットパソコン配布

* 平成31年4月には、地域住民などとの協働スペースやカフェ、ホール、アクティブラーニング教室をふんだんに備えた新校舎が完成し、より充実した教育環境へ。

6 **生徒たちの成長**

伸びた力：社会的課題に関する理解や意欲、思考力、創造力、他者との協働力、寛容さ。

伸び悩む力：英語活用力、能動的市民性

*避難生活の中でつまづいていた多くの生徒が元気に学校生活を送っている。

7 これからの課題

(1) 課題を掘り下げ、本質に迫る「深い学び」の実現。

(2) 対立を乗り越え共存を図る市民性やコミュニケーション力の育成。

→ 「深い学び」の観点から授業を改革していく。今後、シティズンシップ教育、グローバル教育を中高一貫して展開していく。演劇、政治的な争点に関する学習、グローバルな課題に関する学習、哲学、熟議を含めた教育カリキュラムを開発していく。

*困難を乗り越え新しい一歩を踏み出し、変わろうとしている生徒の姿こそ私たちの希望



<第114回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

2017年8月3日、福島市A O Zで、第114回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

「なぜ不安は消えないのか ～脳神経科学から見た福島原発事故～」をテーマに、福島市在住の伊藤浩志氏（脳神経科学者）から報告をいただきました。

暑さの中、35名の市民が参加し、熱心な質疑応答が続きました。

併せて、終了後、会場で文書によるご意見・ご感想が提出されましたので、以下に転載します。参考にしてください。



★ 一般的に報道されている「事象」を、専門的に分析されて解説されており、改めて、「事象の本質」を見極めなければならないと思った。（K.F）

★ 脳神経科学的視点から「不安」が起こるメカニズムを解き明かすところから始まり、原発事故後の人々の不安の根源や行動を起こす背景を分析するととてもおもしろい内容だった。（S.Y）

★ 原発事故に対しての個人の感じ方、不安の在り方に個人差があることがわかり、脳神経科学見地からの説明に大変勉強になりました。地域における相互理解と共生のしくみ、コミュニケーションにより、ふるさと再生の道が見えた気がします。（K.K）

★ 「不安を持ち続けている自分は異常ではないか」と心配する方もたくさんいるので、そこには根拠があるという事がわかって安心しました。大変有意義な会でした。ありがとうございました。（Y.T）

★ 先生の提案、困難ではあるが、努力していきたいと思った。健康問題—誰もが受けられる健診の継続、どう分析するかは大事なこと。専門家集団の頭の切り替えを求めたい。（H.O）

★ 「情動」の果たす役割、自然科学的リスク論の限界、「地域力」（ソーシャル・キャピタル）の重要性など、とても大切なことを教わりました。「非合理」とみなされがちな「不安」に根拠があることも。『復興ストレス』、再読しようと思います。ありがとうございます。（M.K）

★ 説明のあった不安の実態が良く理解できました。しかし、この不安の解消は大変困難であることも分かりました。やはり不安というものは、社会性もさることながら経済性も又大きな要因で

はないかと考えました。結論は、不安というものは、その国の国力に関係し、政治力、経済力、社会力等の総合力で解消するしかないのでしょうか。(H.H)

★ 原発事故による健康被害は、線量のことだけが問題にされてきたが、何か物足りないような感じがしていた。今回ストレスの話をうかがって、納得できた。こういう側面での論点による健康被害のとらえ方が、これまで広がらなかったのが不思議だ。少し観点を変えると、Y教授が、笑っていれば大丈夫と言っていたが、これはこれで正しかった？(・・・)何を信じるか・ですかね。(S.S)

★ 感情が無くなると理性もなくなるというのが興味深かった。(I.O)

★ 「復興ストレス」を読み終えたばかりです。活字では、解釈できなかった部分もありましたが、伊藤さんのお話を聞いて理解することができました。とても有意義な時間でした。ありがとうございました。(M.Y)

★ 社会の病として捉えるという視点の大事さを実感しました。目からウロコでした。本読んで、より深く学びたいと思います。(T.S)

★ (1)#114フォーラム開催有り難うございます。ふくしま復興の行動な本質論をていねいに説明して頂き感謝しております。(2)震災関連死対策は、希望・目標・夢を与えて、実現に向かって行く事が肝要と思われまます。(3)被曝管理は、行政が(費用面も)責任をもって、健康診断・治療・フォロー+ (プラス) 個人被曝量計測を長期継続が必要。(4)復興=風評と勘違いしている向きが見られ、国民全員が支援する事により、復興≠風評被害とせねばならないと思います。(T.S)

◆◆◆◆【会場個人カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第114回ふくしま復興支援フォーラム(8月3日)の会場で、カンパ3,300円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。(今野)

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

【会計報告】(2017.8.3現在)

「収入」

2017.7.6まで累計	59,356円(第2期(2016.10.27~)繰越 7,106円)
会場カンパ(2017.8.3)	3,300円
計	62,656円

「支出」

2017.8.3(会場費115まで)累計	40,520円
計	40,520円

「残金(現在高)」2017.6.16 22,136円

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

【予告】 第116回 ふくしま復興支援フォーラム

日時 2017年10月5日(木) 18時30分~20時30分

テーマ 「山形県内の避難者支援の取り組み~これまでとこれからへ向けて~」

報告者 多田 曜子氏(復興ボランティア支援センターやまがた・事務局)

会場 福島市市民活動サポートセンター(チェンバおおまち) 会議室A1-2